

令和4年度学校評価 自己評価表

愛媛県立新居浜西高等学校  
全日制 学校番号 5

教育方針	自ら人格を磨き、徳・知・体の調和のとれた、個性豊かで国際感覚にあふれ、我が国の発展に貢献することのできる、心身ともに健全な人間を育成する。 <b>「魅力ある進学校」を目指して</b> (1) 個性を伸ばし、正しい倫理観と公正な判断力を育てる。 (2) 勉学に精励し、自発的な学習態度を養い、高い知性と豊かな創造力を育てる。 (3) 強健な心身とたくましい実践力を養い、勤労を尊び、社会に奉仕する態度を育てる。	重点目標	未来を創造し、社会に貢献できる人材の育成 — 自らを発信する力・他者と協働する力・自他を寛容する力 —
------	--	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況 (R5. 3. 10 現在)	次年度の改善方策
学力の向上	家庭学習の充実と基礎的な知識や技能の定着	家庭学習時間、1年生3時間、2年生4時間、3年生5時間以上 各設定時間を基準として、[A:各設定時間以上、B:各設定時間未満マイナス0.5時間以内、C:各設定時間マイナス0.5時間～1時間、D:各設定時間マイナス1時間以上]	A	・家庭学習時間調査によると、1年生4.45時間、2年生文系4.20時間、理系4.58時間、3年生文系5.19時間、理系5.33時間となっている。目標数値を上回っているが、例年と比べると上級生の時間が減少している点が気掛かりである。	・各学年の目標値との差について、振り返りを学年会等で行い、フィードバックをすることが必要である。また、授業改善によって、生徒がどのように変容したかの分析が必要である。  ・近年、学年が進むにつれて総合偏差値の伸びが小さくなっており、3年間の学力育成に展望を持った教科指導を、各教科で工夫するよう周知する。
		対外模試偏差値平均 1年生58、2年生58、[A:58.0以上、B:57.0～57.9、C:56.0～56.9、D:55.0～55.9、E:55未満]、3年生53以上 [A:53以上、B:52.0～52.9、C:51.0～51.9、D:50.0～50.9、E:50未満]	D	・1月進研模試結果 1年生3教科総合偏差値56.6 (昨年度比±0) 2年生3教科総合偏差値55.3 (昨年度比+1.4) ・11月進研模試結果 3年生5教科総合偏差値50.4 (昨年度比-0.3)	
	授業の改善や学習指導力の向上	<u>1人1台端末等、ICTを活用した授業改善に向けた研修会</u> 、学期に1回以上 [A:3回以上、B:2回、C:1回、D:0回]	A	・ICT活用授業改善推進事業に係る公開授業及び情報交換会(英・数)2回、教職員対象研修会2回(夏季休業中:オンライン、2月:講師招聘)を実施し、指導力向上に努めた。	
		<u>ルーブリックの活用等、生徒の力を多面的に評価する方法の研究</u>	B	・新課程の1年生から、本校独自のルーブリックを観点別評価に活用し、教務課と進路課が連携して研究を進めている。	

A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった

可能性の追求	自己実現をめざす進路指導	難関国立大学及び医学部医学科への合格者の学年に占める割合5%以上 [A:5.0%以上、B:4.70~4.99%、C:4.50~4.69%、D:4.50%未満]	A	・総合型・学校選抜型で大阪大学4名、名古屋1名が合格した。一般選抜においては、大阪大学5名、神戸大学2名、九州大学2名が合格した。医学部医学科については2名が受験したが、合格に至らなかった。	・医学科志望の生徒数について、年度により大きな差がある。希望者には低学年から医療体験に参加させるなど、個別指導を充実させ、志望者確保に努める。
		国公立大学への合格者の学年に占める割合55%以上 [A:55.0%以上、B:54.0~54.9%、C:53.0~53.9%、D:52.0~52.9%、E:52.0%未満]	D	・総合型・学校推薦型を利用して45名、一般選抜前期72名、後期21名、合計138名の生徒が国公立大学に合格した。合格者の学年に占める割合は52.3%であった。	
		添削、小論文指導、面接等の3年生の個別指導体制の強化を促進	A	・総合課と連携して学校独自の小論文ノートを作成したり、学年ごとに講演会を実施したりするなど、体系的な指導が実践できている。	
		進路面接年間4回以上 [A:4回以上、B:3回、C:2回以上、D:1回、E:0回]	A	・各担任を中心に、年間最低6回は進路面談を行うなど、計画以上の取組が実施できている。	
	進路探究「仰」の充実	マイブレイン読書一人3冊以上 [A:3冊以上、B:2冊、C:1冊、D:0冊]	A	・「マイブレイン読書一人年間3冊以上」を全学年で達成した。	・柔軟に各種ガイダンスの計画を立て活動の機会と成果を充実させたい。また、「保護者等によるキャリアガイダンス」を次年度は実施したい。
		各種ガイダンスの満足度アップ	B	・事業所や大学等による説明会は計画通り実施できた。大学説明会は3年生の98%が「(大変)よかった」と評価している。「保護者等によるキャリアガイダンス」はコロナ禍もあって講師の応募がないため実施していない。	
		医療現場との連携による医療系職場体験の充実	A	・感染防止対策に留意しながら地元の医療機関で職場見学を実施し、参加生徒の進路選択に対する意欲・関心を高めることができた。	

A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった

豊かな人間性・たくましい心身の育成	部活動の充実と文武両道	部活動加入率84%以上 [A:84.0%以上、B:82.0~83.9%、 C:80.0~81.9%、D:78.0~79.9% E:78.0%未満]	A	・部活動加入率85.5%と目標を達成できた。多くの生徒が学業と部活動の両立を目指し、懸命に取り組んでいる。	・創意工夫のある生徒主体の計画的な活動を充実させる。 ・部活動を通して、自らを発信する力や、他者と協働する力、自他を寛容する力の育成に努め、より良い人間関係を形成させたい。
		県総体200名以上 [A:200名以上、B:190~199名、 C:180~189名、D:170~179名、 E:169名未満] 県高文祭100名以上 [A:100名以上、B:95~99名、 C:90~94名、D:85~89名、E: 85名未満]	A	・県総体に232名、県高文祭に114名の生徒が参加し、目標を達成した。コロナ禍で、様々な困難が伴う中それぞれの目標に向かい励んだものと思われる。	
		決められた時間内での効果的な部活動の実施	A	・ほとんどの部が決められた時間内で成果を上げている。	
	生徒会活動・学校行事の充実	生徒主体の創意工夫のある学校行事の実施と生徒の満足度アップ	A	・西高祭、運動会、クラスマッチなど生徒が主体的に活動し、成果を上げた。	
	人権意識の高揚	人権侵害やいじめの未然防止・早期発見・早期対応	B	・人権意識の高揚につながる人権・同和教育の充実やいじめ等を防ぐ教職員間の連携等により成果があった。	・生徒への発信を工夫して人権意識を高め、問題の未然防止や解決する力を育みたい。
教育相談の充実	SLAとの連携、相談しやすい環境作りの整備と早期の適切な支援	C	・SLAとの定期的情報交換ができた。 ・支援の必要な生徒への教育相談を継続して行うことができた。 ・悩み調査に基づいて、対応が必要な生徒について面談を行うことができた。	・SLAの教育相談等の活用を今後も積極的にすすめていきたい。 ・外部の医療機関等との連携を行い、支援の必要な生徒への適切な支援体制づくりをすすめていきたい。	

A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった

	環境整備の推進	清掃活動の充実、 <u>管理場所の点検・整備</u>	B	・定期的に管理場所を点検してもらい、不良個所は整備することができた。	・日々の清掃活動に清掃時間いっぱいきちんと取り組ませたい。
	安全教育の充実	交通安全教育の充実 交通事故件数の減少	B	・登校中の事故が多い。全校放送等で、その都度注意喚起を行ったが、効果があまり見られなかった。	・交通事故防止のために、生徒会やHR活動を通して、交通安全の意識、行動変容に繋がれるよう計画的・継続的な指導を行っていききたい
		防災訓練の適切な実施と防災教育の推進	B	・防災委員に防災センターでいろいろな体験をさせることができた。	・防災について生徒にいろいろと情報を提供していききたい。
開かれた学校づくり	ニーズに応じた情報提供	ホームページの更なる充実	A	・「新居浜西高校だより」は教頭先生を中心に毎日更新できた。「くすの葉だより」「保健だより」等も定期的に更新できた。	・定期的発行物について、内容の見直し検討をこれからも続け、マナー化を防ぎ、時代のニーズや保護者等の要望に即応したものになるよう努める。
		各種便りの定期的な作成と配布	B	・各課との連携により、毎月「くすの葉だより」を作成・配布することができた。定期的に学習指導や進路指導の情報や、学校行事、諸活動の実績等を発信して情報共有できた。	・連携のために、対面の会合の開催等で、さらに意思疎通を図っていききたい。
		生徒募集活動の充実に向けた広報戦略の工夫	A	・理系を希望する生徒を多く募るため、体験入学時に「西高数理コンテスト」を開催。初回にもかかわらず132名もの参加があり、盛大なものになった。	・「西高数理コンテスト」は、各中学校からも好評を得ており、次年度以降も継続実施していききたい。理系生徒の発掘や、志願増に結び付くことを願っている。
	社会総がかりで取り組む教育の推進	家庭、地域、同窓会との連携の強化	B	・PTA総会と、3回中2回の理事会を時間短縮版ではあるが対面開催できた。対面により保護者の真意を確認しつつ意見を吸い上げることができた。また、街頭補導も冬休みにPTAと協力して実施できた。	

A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった

業務改善・働き方改革	教職員一人ひとりが働きがいと働きやすさを図るための意識を持ち、その環境整備を行う。	<p>従来のやり方・在り方で良いか見直し、統廃合を視野に入れる。</p> <p>前年度の踏襲にならないよう、業務の内容の見直しや精選を図り、年に3項目程度の業務改善を行う。 [A：3回以上、B：2回、C：1回、D：0回]</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務内容の見直しや精選については各課や管理職で慎重に協議し、可能なものは改善等を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職務の効率がよくなるものについて、ICTや校務系GWを活用することで、業務改善や定時退庁につなげていきたい。</li> <li>会議について、資料の電子データ化や書面開催を取り入れていきたい。</li> </ul>
		<p>定時退庁日を月に1回以上設定する。 [A：12回以上、B：9～11回、C：6～8回、D：3～5回、E：3回未満]</p> <p>会議の効率化と時間短縮を図り、勤務時間内の終了を目指す。</p> <p>計画的な年次有給休暇等の取得を目指す。</p> <p>職員室等の整理整頓を学期に1回は行う。 [A：3回以上、B：2回、C：1回、D：0回]</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>定時退庁については、校長が中心となり職員朝礼時等に教職員に対して呼びかけた。</li> <li>会議は効率よく実施でき、勤務時間内に終了した。</li> <li>長期休業中は計画的に年次有給休暇等、取得することができた。</li> <li>机周りの整理整頓等を呼びかけたが、収納場所も少なく、十分ではなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の勤務状況を管理・確認して、適宜面談等を行い、教職員のライフ・ワーク・バランスの充実を図りたい。</li> </ul>

A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった